

江古田小校長室便り 「温故創新」

H30(2018)・0122 NO79

校長 伊波喜一

続けぬく それ才能の 一つかと 歩み続けた 後ろに道が

作家の夢枕 獏は「陰陽師」など、作品が完結しないことで有名です。多作に加えて10数年以上も書き続けているのは、凄いことです。ストーリーを決めなくて書くのが、夢枕流です。それだけ多作に書いていると、スランプが来た時にどうするのでしょうか？

「一生書く、と決めているから、2～3年のスランプは怖くありません。2～3年なんて、一生の内なら大したことではありませんよ。じたばたしてたら、いつかは抜け出せます。そうやって抜け出した後は、確実にステージが上がっています。だから、スランプはチャンスなんです。苦しいからってやめたら、何の財産にもなりません」。

誰にでも、人知れず悶々と過ごした時期があります。この仕事に向いているのか、この人とうまくやっていけるのか、この道を歩いていけばゴールに達することができるのかなど、不安材料は尽きることはありません。でも、辛いからこそ真剣に頑張れます。工夫が生まれます。その繰り返しで、知らぬうちに自身を鍛えます。悩みながらも一歩前に踏み出す。おのずからそこには道が出来るのです。